

前提!

社会はそもそも複雑

地域課題ももっと複雑

行政だけでできることは何もない

課題がなくなることはない

たくさんの人が関わっている

予定通り進まない

LET'S TRY!

複雑なものを複雑なまま受け入れ、「良質なカオス」を作る

- 多様な価値観を持つ多様な主体が、地域の今とこれからについて目を向け、知恵を出し合う場を作る。異なる主体同士の協働を促す。

地域の持続可能性を、基幹産業から考えてみる

- 多様な主体の知見を借りて、地域の持続可能性を探るためには、関わる主体が多いであろう基幹産業を切り口にしてみると、資源と可能性が見えやすい

危機感を共有する

- できたらいいよね、というレベルではない。取り組まなければ、地域の人、自分たちの、命が脅かされるレベルの話であることを、共通意識として持つことからスタートすると、簡単に諦められない

視座を行き来する

- 行政の考え方・目線からではなく、相手の立場で考える。視点を反転する。
- 例えば、住民目線だと、その事業は何の意味があるのか?そもそもを考える。

役割でも組織名でもなく、人を探す

- 庁内では、誰がこの課題意識や、プロジェクトのミッションに「共感」してくれるのか?庁外で、目線合わせができるキーパーソンは誰か?

取り組む必要性和正当性を言葉にする

- 危機感が共有できても、具体的に動ける人が少ないのが現状。なぜ取り組む必要があるのかを、業務や事業に結び付けてつながりを確認すると、具体的な動きと役割分担が見えてくる

弱さを受け入れる

- 行政ができないことを把握し、ちゃんと外部に頼る▷地域プラットフォーム形成へ
- せめて、民間の邪魔をしない、させない。

説得ではなく共感を引き出すコミュニケーション

- 「これをやってほしい」ではなく、「この課題と一緒に解決してほしい」
- 何のためにやるのか、目的とプロセスを共有する

行政の外側に、アジトを作る

- 続けるためには、業務と紐づけながらも、自由に議論を続ける場が必要
- 行政以外の人のパートナーがいるとなお心強い

and MORE

市内複業政度の導入 ※「副」業ではなく、マルチに考える

分野横断プラットフォームを行政の施策に位置づける

2つ以上の課の担当者同士で企んでみる